

日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

1月5日火曜日

2016年(平成28年)

関西の中小企業が連携してモノのインターネット(IoT)に挑んでいる。電子部品、機械式計測器、組み込みソフト、システムソフトなどを得意とする中小企業が、将来の現場や情報通信技術(ICT)に自社技術・製品を生かせるのか。彼らの取り組みを追った。(大阪編集委員・青木俊次)

IoTやM2M 関西の中小連携

プロジェクト名は「関西積乱雲プロジェクト」。2013年12月、クラウドとIoT分野で各社の製品・技術を実証することを目的に発足した。機器間通信(M2M)遠隔監視のミドルウェアを手

がけるカナダのベンチャー企業・コーシエン トリアルタイムシステムズを核に、関西6社(全9社)が参加している。関西6社は通信・各種センサーデバイスの東亜無線電機(大阪市

関西積乱雲プロジェクト

世界市場 目指して

浪速区)、クラウドサーバーのベルチャイルド(同北区)、各種センサーの木幡計器製作所(同大正区)、遠隔監視用機器のハネロン(大阪府八尾市)がハードを担当。工業用ネットワークのニック(大阪府八尾市)、制御系や組み込みソフトウェアの日新システムズ(京都市下京区)がソフト分野を担う。

プロジェクトでは各社の技術、市場動向、共同開発や実証成果などを情報交換する定例会を毎月開催する。セ



関西積乱雲プロジェクトで15年12月の展示会「SCF2015」に出展した会員

同開発および、その取り組みをPRしている。具体的には各種センサーやゲートウェイ、通信デバイスなどの接続実証実験、同時データ伝送、安全性の高いシステム開発などに取り組んだ。その結果、

「組織は方向性を確認する程度」の緩やかな連携で、15年6月にIoTに対応したセキュアマイクログクラウド「アイブレス」を完成。現在、島の淡水プラントや農業用水を利用した小水力発電装置の監視システムに採用され成果を

無理に広げず、賛同する企業が参加を促したい(木幡計器製作所社長)と強調する。クラウドで得た情報を安

クラウド監視成果着々

彼らの今後に注目するとともに、このような連携が他の分野や地域で続々生まれることが期待される。

挙げ始めている。一方、大阪や東京の展示会で取り組みをPRし「この分野で中小企業が連携し、一貫したシステムを開発した点と、安全性を高めたクラウドによる遠隔監視製品の良さに多くの大手企業が注目してくれた」と喜ぶ。今後は次世代システムの開発にも意欲をみせるほか、「参加企業間で営業部門の連携も進め、共同で世界市場も目指したい」と(同)と目を輝かせる。